

特集食II

ICT活用でトップブランドを目指す三重南紀みかん

プロ農家の経験と勘の継承

現在、日本農業は急速に高齢化が進んでおり、三重南紀地域でもそれは同じことです。このままでは、今まで脈々と培われてきたプロ農家の高度な栽培技術が失われてしまいます。



三重大学大学院生物資源学研究所・教授 亀岡 孝治 Kameoka, Takaharu [URL] http://hadron.bio.mie-u.ac.jp/fec/

金山パイロットファームにて

全国唯一の実証現場

三重大学では1997年～2005年に「農林水産省ITプロジェクト」に参画し、X線や赤外線の波長の光、色彩などを分析し農作物の成分データ(糖度やビタミン含有量)、土壌の水分データを収集する光センサーで情報を蓄積・分析する圃場サーバ、蓄積した情報を農家同士でやり取りするネットワークなどの実証実験を行ってきました。

2008年からは今までの実験を生かした、「農林水産

●三重南紀地域で栽培されています(三重県のみかんの80%を生産)

12月～3月

ハウステコボン デコボン



3月～5月

甘夏 セミノー



4月～5月

カラ



5月～6月

サマーフレッシュ



6月～9月

温室みかん



9月～12月

極早生温州 早生温州



【みかんの栄養と効能】 【おいしいみかんの見分け方】

ビタミンA、C、ペーカ・ク립トキサチン、食物繊維が豊富で美肌効果、風邪予防、血管を強くし血液の循環を良くし動脈硬化、がん等の予防にもなります

へたの切り口が小さく果皮の色が濃く張り、つぶつぶが小さく重量感のあるものが多いよ



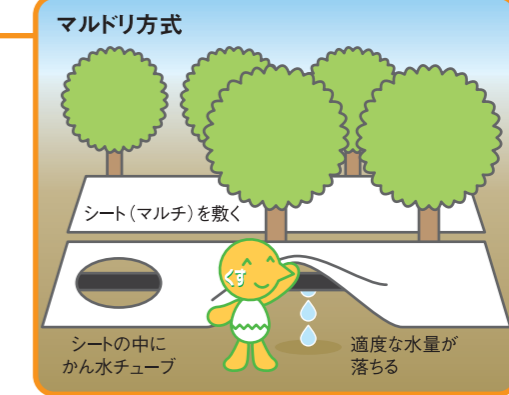
三重南紀みかん圃場モニタリングシステム



なるほど、このデータにより、みかんの樹にタイミングよく適度な水を与えることができ、美味しいみかんが作られるんだね

農園のICT 実用化

「フィールドサーバ」等により得た、土壌水分など様々なデータを有効に活用し、たとえばマルドリ方式*1で気温変動、特に降水量にも左右されずにみかんの樹に適度な水量を与えるなど、実際の農業現場で実験を行っています。この実験を通じ、「農作業が終わって疲れて家へ帰ってきた農家が、思わず見たくなるホームページ」の完成を目指しています。



センサーネットワークとは 複数のセンサー付無線端末を空間に散在させ、それらが協調し、一度に風速・風向・雨量・日射量・気圧・温度・湿度に関するデータを収集、環境や物理的状況を探取することができる。(4機で1haをカバーすることができる。)